

授業改善書

科目名	初等教科教育法(国語)
担当者	梅澤 実

授業の概要

小学校学習指導要領をもとに、小学校国語科の目標・学習指導について理解し、言語活動の充実を図る国語科授業の創造を目指した。具体的には、授業実践例を紹介し、教材と児童の学び、教師の指導との関連を考察した。さらに、模擬授業を通して、学習指導案の作成、授業展開の技術についての力を修得を目指した。

授業の問題点

「授業への学習態度はどうでしたか」4項目平均4.29、「授業内容について」3項目平均4.59、「授業方法について」5項目の平均4.54、「授業全体について」2項目の平均4.61であった。自由記述の中に、「学習指導案の書き方をしっかり学べた」「指導案を書く上で参考になった」等、この授業で何を学べたかの記述がなされていた。第2回目の授業で、学習者の側から国語科の授業を体験させた。この体験からの学びを学習指導案作成の基盤とした。その後、話すこと・聞くこと、読むことの学習に関する指導法に関する理論と学習指導案を作成し、模擬授業を実施した。しかし、書くことの学習については、指導法に関する理論が中心となり、模擬授業にかける時間は十分にとれなかった。

授業改善の課題・方策

指導法に関する理論と実践をつなげるためには、学習指導案の作成と模擬授業に対する議論が必要であり、授業者と学習者の十分な振り返りが必要である。

そうした時間を確保するためには、今後下記の点に留意したい。

- ・大学教員が小学校教員役となり、学生が児童となって行う模擬授業での振り返りには、まず、受けた授業を指導案として作成してみる。次に、撮影したビデオをもとに、学習者としての理解過程(例えば、発問でどのように考えたか)を考察し分析する時間を十分にとる。この授業体験を基盤に、国語科の授業について考えさせていく。

- ・学習指導案作成の初期段階は、グループでの作成を行うために、グループ学習に臨む前に、予習として各自で学習指導案作成させることで、グループ討議をより充実させる。

その他